

竹原管内景況調査

9月の景況DIは、製造業、非製造業ともに悪化

当所では、地域商工業者の景況並びに経済動向等に関する情報の収集・分析を行っています。今号では、令和6年9月に実施しました調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

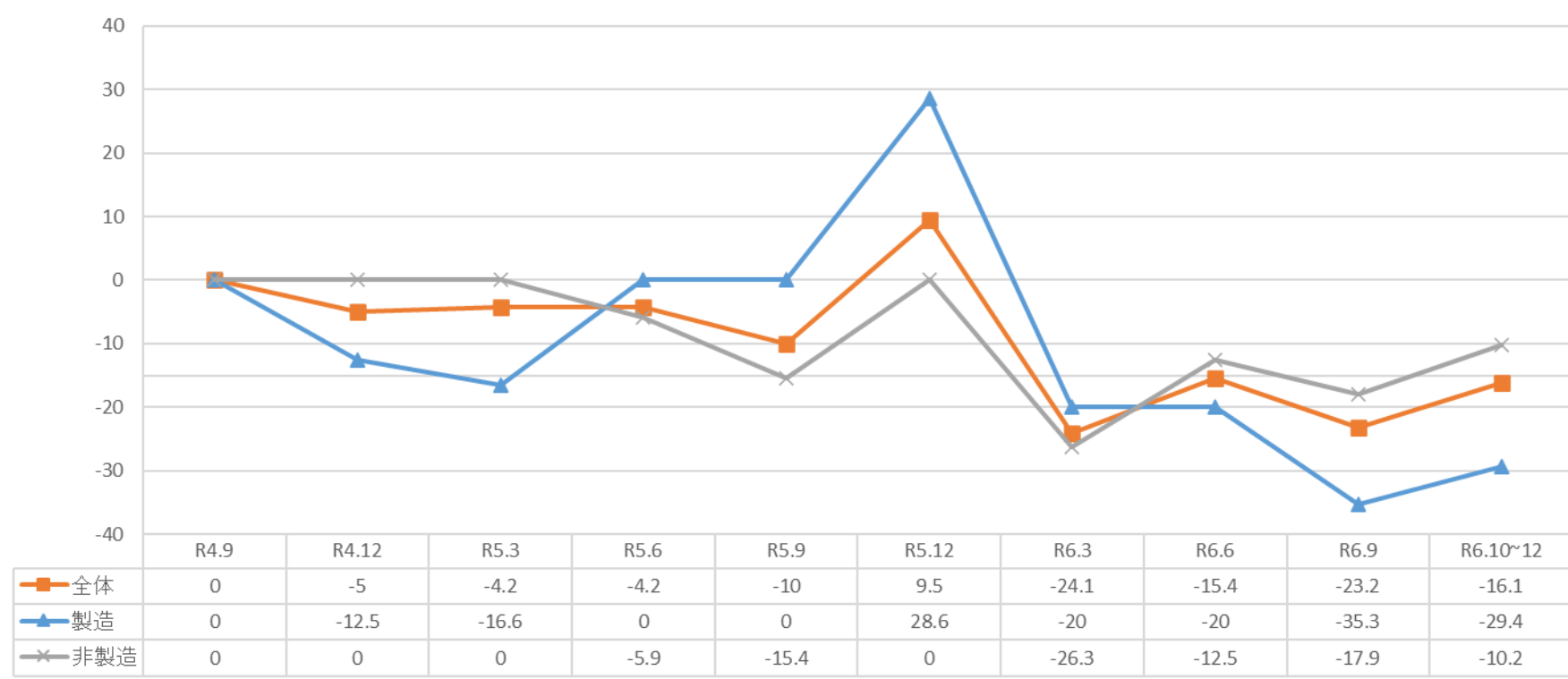
調査概要
【調査時期】
四半期毎に調査(年4回実施)
【調査期間】
令和6年9月
【調査対象】
当所会員

回答状況

産業	対象事業所	回答数
製造	19	17
建設	9	8
小売	20	17
サービス	19	14
合計	67	56

●全産業におけるDI値

景況DIの推移



9月の景況DI数値は、前回調査と比べて製造業は15.3ポイント悪化、非製造業は5.4ポイント悪化しました。9月と比べて10月~12月までの見通しは、全体では、7.1ポイント好転しています。



※DI(ディフュージョン・インデックス)は、各調査項目についての判断の状況を示します。

ゼロ基準として、プラス値は景気の上向き傾向(「良い」)をあらわす回答の割合が多いことを示し、マイナス値(▲)は景気の下向き傾向(「悪い」)をあらわす回答の割合が多いことを示します。

●景況が好転(悪化)した理由について

- ・元々がデフレ、需要不足だったというのに、コロナ、戦争によるコストプッシュインフレによるダメージ。社会保険料の負担、人件費高騰はきつい。経済政策の間違いによる被害。まずは需要を奪うような税金はやめるべきだし、保険料、ガソリンを下げるべき。賃上げはあとで良い。企業が倒れたら本末転倒。(食肉)
- ・受注減少、及び労務費、原材料費上昇のため。(ゴム)
- ・コスト増加による原価率の上昇に加えて、昨今の物価上昇に伴う贅沢品への家計支出の減少が大きな要因と考えられる。また、景気悪化に伴う輸出額の減少も懸念される。(日本酒)
- ・経費が増える一方で、受注が減り、単価の値上げもしてもらえない。(機械)
- ・原材料、商品仕入れ価格の高騰、人件費の値上がりによって悪化している。(パン)
- ◇建設業
 - ・公共工事の減少。建材、人件費の高騰。(建設工事)
 - ・熱中症対策で仕事が捗らず、工期のずれ込みが多くあった。(建設工事)
- ◇小売業
 - ・経済環境の悪化により、販売が低迷する一方、原料、資材、製造コストの上昇により仕入れ価格は上昇し、収益が圧迫している。(食品)
- ◇サービス業
 - ・諸物価高騰したために、経費(出費)が増加している状況下で、よしんば収入が変わらなくても収支は悪化(タクシー)

●令和6年度の業界動向の見通しについて

- ・需要が喚起されない限り、価格の殴り合い。結果が悪いのは目に見える。企業努力の域を超えている状態。値上げ交渉はしても、数量が落ちるので意味がない。(食肉)
- ・資材・原材料費の高騰が見込まれるが、価格転嫁が難しく厳しい状況が続くと見込まれる。(日本酒)
- ・円高が輸出に影響する可能性がある。(精密機械)
- ・不安定な国際情勢による地政学リスクの影響、輸入コスト、およびエネルギーコストの高止まり等に加え、物流費の更なる高騰が続いており、厳しい環境は継続。(食品)
- ・広島県の牡蠣養殖容器を製造しているが、海水温の上昇等の影響で牡蠣の生育が悪く生産量が減っている。今年も影響を受けそう。(発泡スチロール製品)
- ・人手不足が解消されない限り、現状維持のまま推移していくと思われる。宿泊部がいかに稼働率とADRのバランスを保ちながら、RerPARをあげていけるのか大きな焦点となってくる。(ホテル)

(※アンケート全体から一部抜粋しています。)